

私が要約してみた 9 行

一九六〇年代、豊中市では、クマゼミはめったに捕ることができなかった。しかし一九八四年、大阪市内では、クマゼミの声しか聞こえないほどになっていた。不思議に思った私は森山実さんと二〇〇三年から六年間に及ぶ調査を行った。(1段落と2段落は研究のきっかけを述べているので一つの段落にまとめました。)

二〇〇八年に大阪府内で行った抜け殻調査の結果、大阪市内ではクマゼミが圧倒的に多く、アブラゼミは二割以下、ニイニイゼミやツクツクボウシはいなくなっていた。いっぽう、市外の緑地や森林は、依然としてアブラゼミが多く、山の上には、さらに多様な種類のセミが生息していた。

大阪市内ではなぜクマゼミの占める割合がこれほど高くなったのか。一九六〇年からの五十年間で大阪市の年平均気温は約一度上昇し、湿度は十パーセント近く低下した。クマゼミはもともと暑さには強いと考えられる。ヒートアイランド現象による環境変化が有利に働いたのだろうか。私たちはこの点について検証した。

* 枠内は 1 行 50 字に設定 (赤字は削除だけでなく字句を変更した部分。他は削除だけで要約しました。)